３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１日曜日

知足の森

第１日曜日

相模湖・嵐山の森

第３日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

【定例活動報告】小原本陣の森

宮村先生達地球環境部の学生さんは「知足の森」の草刈に出かけた。フォレストノバの学生と我々は、旧小原の基地へと向かった。目的は旧小原基地にあったトイレの撤去に係る調査と現状把握。

久しぶりに基地に着くとトイレが無ければ元基地であったことが判ら無いくらい自然に覆われていた。しかし、基地周辺の土留めのお陰でしっかり環境を守っている様子であった。

その後、畑に寄り、石井さんが用意してくれたサツマイモの苗を50本ほどフォレストノバの学生と共同して作業し、周辺の草取りをした。ネギ坊主が育ち、ホウレンソウも塔が立ち収穫遅れになっている。

カドヤ食堂に持っていったら喜んで頂き、つまみをサービスして頂いた。次はジャガイモの収穫ヤーコンや麦の収穫が続く。

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

午後から、小林校長先生の自宅に伺い今後の基地問題について相談させて頂いた。大変親身になって相談に乗って頂いたお陰で、今までの心配・不安が消えた大事な日となった。

ForesTo Classの二藤君と高橋君が三十三曲りから孫山コースへの登山入口を案内してほしいとのことで、入山から登山道までを案内した。その後二藤君たちは孫山まで登った。

小林　照夫（本会、理事）

【定例活動報告】相模湖・嵐山の森

梅雨の合間で一雨来そうな空だったが、一日中持ってくれたので一変活動日和だった。前日までの雨で土が泥濘転倒者が出ないことを願うまでだった。

森林整備班は、午前中基地周辺の草刈を行った。原田先生や石村さん、川田さん、角田さん、岡田さん、石原さん、薄井さん、二年ぶりに参加の白石さんも加わって頂き捗った。

石井さんが畑の都合で活動には参加できなかった分、キュウリを沢山持ってきてくれたので、学生たちは「家にお土産ができた」と喜んでいた。

午後からが、本日のメインテーマの基地の三画小屋の解体作業を行った。4時から交流センターで総会があるので、遅くとも3時にはキッカリ終わらければいけないのだが・・トタン板は頑丈に釘で止められていたため想定以上に時間を費やしてしまった。躯体の解体はもっと頑丈でバールや木槌、鉄パイプなどを振り回し危ない状態だった。構造が現れる毎に解体ポイントが見えてきた。横屋根は乗せてワイヤーで縛ってあるだけだと見破り、皆で横にスライドさせて落とすことに決め、引き始めた途端、思わぬ方向の柱が倒れたため一瞬にして小屋が潰れるという惨事が起きた。運よく誰もいない角度で怪我人は出なかったものの、現場監督としては皆に責められる運びとなった。

ヒヤリハット危機管理をもう少し徹底しないと、事故が起きてからは取り返しがつかないことだ。今後は十分な注意を怠ら無いよう活動を指揮するべく反省させられた。お陰で、解体作業は思った以上に進み、時間内に予定の作業を終わらせることができ、4時からの総会に全員が間に合うことができた。

総会決議はスムースに進み、懇親会も「危機一髪の話」でもりあがった。無事終わって良かった。精神的に久々疲れがでて帰りの電車も寝過ごす始末でした。（報告：小林　照夫）

地球環境部は昨年雨が続いて完了しなかった植生調査を行った。これまで東海大高輪台高校がSSHのリベラルサイエンスとして行ってきた範囲に３つのコドラートを作っており、そこでの継続調査。もちろん我々だけでは心もとないので、学芸大の小柳准教授に指導してもらうことになった。事前に小柳先生の研究室にお邪魔して、調査の計画、準備などなどを進め、かつ今回からiPad数台を持ち込み、私のスマートフォンからテザリングし、千葉県の植物図鑑にア

クセスしながら同定を行う試みを行った（通信量がどれくらいになったかは教えられません）。さらに特徴的な植物については学校に持ち帰り、標本作りにも取り組むことになった。今回の調査は8月の環境教育学会でのメッセ発表（NPOや企業がPRできるスペース）を行うことになり、生徒たちもそのつもりで眼差しは真剣そのもの。午後からは初参加の生徒も多くいたため、間伐を２本。この区画はこの3月までだがまだまだ欠頂木や曲がってしまった木が多い。なんとか期日までには作業が終わりました、と言いたいが、焦って怪我や事故をしては意味がないので、焦らず、ぼちぼちと、と行きたい。今後も活動を継続する望星の森はまたしても林床が暗くなってしまい、追加の間伐が必要だと思われる。この辺りのペースや間隔が針葉樹林とは違うのではないだろうか。（報告：宮村　連理）

今回は、主に植生調査と木を切る作業をしました。植生調査では、１平米の範囲に、たくさんの植物が生えていることがわかり、驚きました。中には、全く知らなかったような植物もたくさんあったので、面白かったです。

午後は、皆で大きな木を数本切りました。みんなで頑張り、息を合わせて綱を引き、木が倒れた時にはとても感動しました。また、切った時に残った破片の皮をはぐと、そこがとても湿っていて冷たかったです。これは、切ったばかりでないと、こうならないそうなので、とても貴重な体験ができたと思いました

これからも、このような体験をたくさんしたいです。（南　悠水、東京学芸大学附属小金井中学校２年）

桜井尚武の森のコラム　「カンゾウ：ユリ科ワスレグサ属(*Hemerocallis*)の総称」

図1．ヤブカンゾウ 20090630嵐山

図2．ノカンゾウ 20090630嵐山

ススキの様な細長い葉の形から萱草（かやくさ）のようだとして名付けられたという説があります。中国六朝時代の「文選」にあり日本では万葉集にも身に付けると恋の悩みを忘れるという意味で詠まれ、平安時代以降には人を忘れる草として詠まれたといいます。このカンゾウが嵐山一帯では今の時期そこかしこに見られます。ヤブカンゾウ（*H. fulva form. kwanso*）がいかにも夏だぁーという雰囲気を強調する暑苦しいほどの八重の黄褐色で赤色の斑紋のある原色の花を開きます（図1．）。ワスレグサの名前はこの花をさしたものという説明があります。近縁のノカンゾウ（*H.fulva var. longituba*）は八重でない6枚の黄褐色の花弁を展開させます（図2．）。高原や高地の湿原一面を覆う鮮やかな黄色のニッコウキスゲ（*H.dumortieri var. esculenta*）、とりわけ尾瀬ヶ原のニッコウキスゲ群落は壮観ですが、ここに載せたのは車で近くまで行ける籠の塔山（標高2,228m）のものです。ところで、中華料理の金針菜を御存じでしょうか。カンゾウの母種のホンカンゾウ（*H.fulva*）は中国産で中国では広く栽培され（図4．）、そのつぼみが野菜として食べられてきました。花はニッコウキスゲに似ますが色が黄色で爽やかな感じがします（橙赤色のものまで変異があるそうですが私は黄色しか知りません、日本にも黄色い花にユウスゲ（*H.thunbergii*）というのがあります）。料理名の金はこの黄色、針はつぼみのとがった様子からきていると思います。取り立てて美味いとは思いませんが、黄色い花が広がる風景を思い出す懐かしい中国の料理です。ヤブカンゾウなどのつぼみも若芽とともに料理に使えるそうです。なお、読みは

図3. ニッコウキスゲ
20130722籠の塔山

図4. 金針菜
20070815中国大同

カンゾウでも甘草と書く植物がありますが、これはマメ科の多年草（*Glycyrrhiza uralensis*など）に付けられた薬草名で萱草とは全く別物だそうです。

桜井　尚武（本会、会員）

【定例活動報告】知足の森

今年度、私が勤務する東京学芸大学付属小金井中学校で展開する「実際に取り組む環境問題」の受講者が多く参加した。例により、なんだかよくわからないまま森に連れてこられ、今からここからここまでの雑木を整理する（切ってきれいに並べていく）から、とまずは作業から。これも例により都会っ子丸出しの本校生徒は何をどうしていいかわからない。そもそも斜面を登り、そこに静止することに精一杯。それに対して慣れている中高生は次々と切っては並べを繰り返しどんどん森が明るくなっていく。見よう見まねで切っていく本校生徒もあれやこれやと小言のように言われながらもだんだん手つきがよくなっていく。この適応力の高さはさすがと言うべき。半日終わる頃にはなんだか楽しそうで、次はどれやりますか？という感じにこの森に通っている生徒の顔になっていた。今回はこの活動の直後にNHKで九州での焼畑で有名なドキュメンタリー、クニ子おばばと不思議の森を見ることになっていたので、無用な説明はしなかった。案の定、後日皆でそれを見てみると、今回参加した生徒の顔つきが、まだ森に来たことのない生徒と全然違う。こういうことだったのか、萌芽更新、一生忘れない単語になりそうな予感がする活動となった。

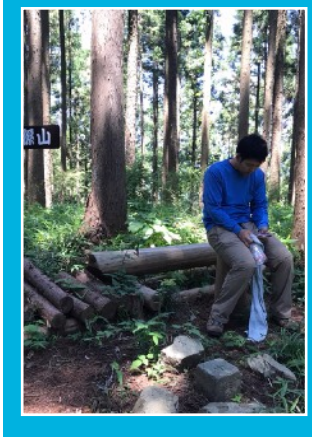
宮村　連理（本会、副理事長）

【若者の森づくり】Foresto Class

6月3日のForesTo Classの活動は散策路兼、作業歩道の確認と作業範囲の確認でした。

午前中は、小原宿から山に入り尾根沿いに孫山へ抜け再び小原宿に戻るというコースで獣道と整備された道を、およそ3時間のハイキングになりました。

途中2組のハイキング客にお会いし、どちらも明王峠を目指しているとのことでした。尾根沿いの道は既に整備がされており歩きやすく、また都心部から近いこともあって日曜日にサクッと歩くのに丁度いいのかもしれません。



午後は小原宿から永井さん所有の森を真っ直ぐに上に上がるルートに道を作ることが出来るかの確認を行いました。

沢の少し上に炭焼き窯があるので、修復して活用出来ると面白いかなと思いました。

次回より作業道兼散策路の具体的なコース取りと整備を進められればと考えています。

加藤　浩晃（フォレストクラス）

【若者の森づくり】Forest Nova

今回、さがみはら環境まつりでは子供達を対象に木のストラップ作りと木のパズルに挑戦してもらいました。スタンプラリーで来てくださる方が多く、大人の方でもパズルに挑戦していただけました。木のストラップ作りでは絵の具や木の実で、ノバの活動で伐採した木をデコレーションしてもらいました。開催場所は相模大野駅周辺のユニコムさがみはらという麻布大学から近いところだったため、麻布大学やノバを知っている方もいました。想像していた以上に子供達が積極的に木のストラップ作りに参加していただいたため、途中、材料が足りなくなるハプニングもありました。

今回のイベントの反省点としては事前の準備不足と担当・シフト調整が上手くいかなかったことです。しかし、子供達や保護者の方、イベントに出展していた方や地域住民の方達とコミュニケーションが多く取れた点は良かったと思います。次回は、事前準備の段階で見通しを立てて行動していきたいと思います。

三橋　晴香（Forest Nova）

【若者の森づくり】地球環境部

今回は学芸大小金井中の生徒で初めて参加した生徒の感想をご紹介します。

私は今回初めての参加でした。植生調査では見たこともなく、名前も知らない植物ばかりでとても難しかったです。でもたった1m^{3}の中にとてもたくさんの植物があって驚きました。またその狭い中にも同じ植物がかたまっているエリアもあって、植物は小さいけど、ちゃんと種を飛ばしているのだと実感しました。印象に残ったのはやはり気の伐採でした。現場は足元も安定しない場所で他の木もあって伐採はとても頭を使うものなのだと分かりました。ただ木を横向きに切れば伐採の作業は終わると思っていたけど、工夫された道具や決まった切り方で切っていてやはり経験も大切だと思いました。また、滑車の考え方も使っていたり、イレギュラーなことが起こったりして森の作業は筋道を立てる力や学習を生かす力がつくなと感じました。またいって今回よりもスムーズに作業できるようにしたいと思います。

水内　さくら
（東京学芸大学附属小金井中学校２年）

【イベント報告】

パタゴニア横浜関内店で積み木イベントを開催

今回のイベントはパタゴニアのお店の中でやらせてもらいました。始まる前はお店の人たちに迷惑をかけないだろうか、ちゃんと積み木で遊んでもらえるだろうかなどとても心配でした。始まってみると、お店の人達はとても真剣に話を聞いてくださって、自分達の活動にもとても興味をもってくれていました、子供たちは始めの方は当日の天気があまりよくなくて、子供達が全然来ませんでした、しかしお昼を過ぎた所から子供達がかなり来はじめました。子供達は積み木でとても大きな物を作ったり、とても高く積み木を積み上げた子もいました、子供達はみんなとても楽しそうに積み木で遊んでいました。今回はより多くの子供達に積み木で遊んでもらうことができました、そしてより多くの人達に自分達の活動に興味を持ってもらえました。

山口　拓海（フォレストノバ）

今回のイベントは昨年度からの同社の環境助成金をきっかけに店舗での積み木イベントを、ということで取り組みが始まりました。夏休みでのイベントを本番に今回はどのような形で運営できるか、というプレイベント的な位置付けでしたが、無事に行えることが分かりましたので夏休みのイベント日時が決まりましたらまたお知らせいたします。

【事務局から】

通常総会を開催しました

６月第３日曜日の活動後に県立交流センターにて通常総会を行いました。各活動班のリーダーからの活動報告をしていただきながら、全ての議案が賛成多数で可決され、今後も緑のダム運動を継続、発展していくことが確認されました。ご参加いただいたみなさまありがとうございました。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は汁物が提供されますので自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア環境助成
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所